



創造・感謝・勤労

飛 幡 中

2019年度

北九州市立飛幡中学校 学校通信

令和元年 5月24日 No. 5

発行責任者 校長 池 浩幸

学校所在地 戸畑区小芝一丁目8番20号

TEL093-882-3652 FAX 882-3618

【 お疲れ様、中間考査に挑む！ 】

昨日から行われた中間考査も今日で終了、お疲れ様でした。1年生は学年授業でしたが、2・3年生にとって、今年度最初のテストはいかがでしたでしょうか。どの教科も基礎・基本的な内容が主で、いかに授業中に学んだことが復習できているか、自分のものになっているか、が大切だということが確認できましたね。

テストの結果(点数)よりも、どこが間違えたのかの「リカバー」に重点を！

テストが終われば、返ってくる点数が気になるところです。が、テストは何のためにあるのか、を見失わないようにしてください。点数や順位も確かに大切ですが、自分がどこを間違えたのか、どこが理解できてどこが理解できていなかったのか、を確認するためのものです。テストが返却されたら、必ずやり直しをして「自分のもの」にしてください。その取組を繰り返していくことで、本当の学力が身についていくものです。同じ問題が出たときに、次は間違えないと自信もつくものです。テストは終わった後が大切なのです。

【 避難訓練実施！ 】

本日、中間考査終了後、3校時に避難訓練を行いました。今回は火災を想定しての訓練でした。避難指示の放送後、全校生徒410人が一斉に体育館に集合しました。ほとんどの人が真剣に集団行動ができていました。しかし、本当に災害が起きたときには訓練どおりにはいかないものです。自分の身は自分で守るのが災害時の基本です。自分勝手な行動はパニック事故の原因になります。慌てず、騒がず、情報をしっかりと判断し、スムーズな行動ができるよう日頃からの「備え」をしておくことが大切です。訓練はそのためのひとつの指針です。皆の自覚と協力をお願いします。

【 「先義後利」 】

「まず相手のために思って行動したことは、いずれ必ずよい結果となって自分に返ってくる。」

様々な事をなすときに、いつも心がけていることです。「なぜ自分が・・・」と思うことも少なくない世の中ですが、「これには何か必ず意味があること」と自分に言い聞かせ、特に迷ったときにはまず生徒のため、相手のために、と考えるようにしています。時間はかかることもありますが、振り返ってみれば結果、これでよかったかなと思うことが多かった気がします。

忙しいときほど、こんな風に「余裕」をもって考えて動ければと思う今日この頃です。

余裕

世の中には心の余裕がある人とならない人がいる。その根拠は人それぞれで容易に窺い知れないけれど、実は物の見方一つとは言えまいか。例えば、余裕のない人は予定外のことがあると取り乱す。一方、余裕のある人はトラブルを肯定し、事態を捉え直して解決する。優れた経営者の中にはトラブルを楽しむ感のある人いるが、それができるのは物事の本質を見極めるコツをつかんでいるからであろう。一流プロゴルファーもミスを最初から想定してプレーしているという。ミスショットを予定の一打と考えるので、窮地でも自分を見失うことがない。素人に限ってナイスショットだけを期待するから、落胆ばかりするのである。

結局、余裕とは、人は完璧でないか、あるいは物事はうまくいかないものだといった、鷹揚で肯定的な考え方によるのではなからうか。

余裕を求めるならば、まず余裕を持ちたいと強く願おう。そして何でも受け容れる努力から始めよう。

(PHPより)